内外電報

過激派政府と米國
米國亦代表者を派遣せん

倫敦にて聯合國と過激派政府との協議會開催の場合に關し米國政府は今回愈公式の通知を受けざるも自國の利益に依り米國は世界に於ける現在の地位決定に關係ある會議には多分代表者を派遣す可しと

米政府と波蘭形勢

米國政府は波蘭の形勢を重大視しつゝあるも多分嚴正中立の現狀を維持すべし（紐育來電）

哈府臨時政府聲明

（東京來電）

尼港砲艦事件否認
支那政府公式聲明書發表

支那政府は五日左の公式聲明書を發せり（北京來電）

支那軍隊我に感謝

時局と上海學生會

上海學生聯合會は其の「父兄に告ぐ」なる次の趣旨の檄文を配付せり（上海來電）

聲明及釋明に止めん
米國抗議に對する外調會

（東京來電）

英國抗議

（倫敦來電）

四國借款

（東京來電）

臨時行政

（東京來電）

浦鹽動搖

（浦鹽來電）

占領通牒
サガレン占領問題

（東京來電）

露領近信

武市險惡

金塊準備

漁況不振

貨車引渡

引揚民

ワルソー撤退

兒島司令官赴任

陸軍進級異動

何等の質問

高等試驗改正令

波蘭新任公使

佛國禁輸緩和

新領土に對し

公訴不受理問題（一）
昌原事件判決書

聯立内閣出現か
原内閣の救濟策
貴族院を中心として無任所大臣を新任して大臣病者を救濟

大臣病者

學國一致

正義硬骨

米議員團來訪

關稅法規問題
議會に於ける重要問題
關稅撤廢と其影響
水口稅務課長歸任談

總督府豫算

食糧豐富

生活逼迫

英大使北京行

米軍艦大連着

サガレン州漁場落札

總監大機奉伺

農作物は豐年
國境警備元氣旺盛
青木庶務部長談

今回總督

平穩無事

商議會頭の椅子
噴火山上に一時を偸安する平壤
裏面の滑稽味と芝居氣

不信認

決議文

擅行し

葬られ

大塚局長出發

鮮人私學狀況

前田司令官着任

人事

風塵錄

帝大音樂團入京

京城定時株主總會

海州より

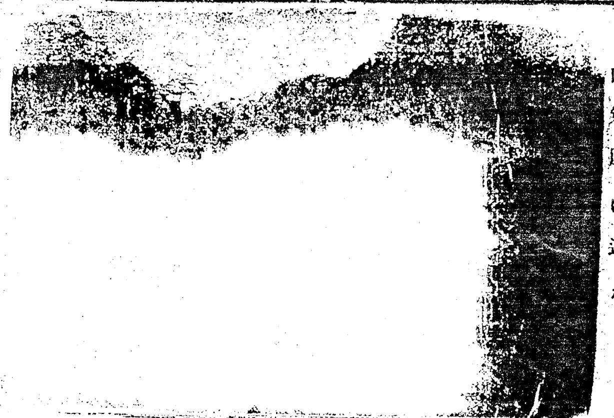
大阪財信

西陣織業

謹告

本社理事 宮本信治

京城日日新聞社


山氣肌に迫る

問題になった 公訴不受理判決
高等法院決定書には事件送致決定の記載がないとて事件は逆戻りとなる
境檢事は直ちに控訴手續

狀況に鑑み

理由の許

果然に取

様々な博士の名稱
新學位令發布の結果
神學や經學商學等も出來やう

大臣の手

學部組織

法文學部

生物を口に入るな
之が豫防の第一秘訣
芳賀醫學博士の談

虎疫豫防の宣傳ビラ

數萬枚を

假令病毒

標語こそ

發病せず

三萬留が日貨一圓
貞操の廉賣で糊口を凌ぐ
那人引揚後のチタの慘狀

誘惑の

最も必要

自動車の新記録
九十九分に二百哩突破

野口博士の新發見
黄熱の病源と其療法

勇敢なる二兵卒
馬賊の襲來を撃退し
其頭目及び部下を殪す

射擊を

戰死し

警戒中

北滿事件の一人獄死す

虎疫は愈々猛烈
火の出るやうな當局の防疫振り
七日の累計は十六名

警戒せよ〳〵

虎疫豫防には交通遮斷が一番だ
嚴重に實行したら安全と田中丸醫師語る

豫防方法

侵入を受

他の部落

流行地

河水使用禁止
埋火葬所は先づ警察へ

水源地の警戒嚴重
漢江の河水も使用禁止

軍隊の防疫

聯絡船檢

釜山虎疫猖獗
計二百六名

喫すべき 犯罪裏面
數萬圓の横領金は如何に費消されたか
巧妙極まる犯罪の經路（一）

繁昌する 公設市場
近頃では何でも間に合ふ

素人大相撲
明治町にて

瓢簞から駒
閉場に重傷を負はす

虚榮の罪
盜んだ小切手で詐欺

臨時清潔法

水道鐵管破裂

一鯉

馬の鈴

謹告
辯護士 石塚嘉



小葉判官 照手姫 （三十六）

旭亭 横山 口演

箱根に女巡禮の姿

「然らば私が御案内へ歸つて見ませう」と小四郎……



演藝案内

戸田新八郎

人間タンク

女一代

ナムバーワン

月縫ふ人

朝鮮郵船

元山出帆

釜山出帆

木浦出帆

仁川出帆

朝鮮郵船株式會社

年中無休刊

京城日日新聞

社說

新地方制度（上）

一種の諮問機關なり

今回發布されたる朝鮮地方制度の改正案は本紙に先ちて掲載しつゝあるを以て讀者は既に要領を得られたることゝ信ずるが、吾人は此に其要點を擧げて批評を試みんとす。朝鮮には從來府には府協議會あり、面には特に多くの面の中より…

以上一萬未滿は八人、人口一萬以上二萬未滿は十人、人口二萬以上五萬未滿は十二人、人口五萬以上十萬未滿は十六人、人口十萬以上は二十人と定めらる、而して府協議會員の資格は凡て帝國臣民にして獨立の生計を營み、年齡二十五年以上の男子にして一年以上其府に居住し、府税年額五圓以上を納むる者に限ること〻せり。

殖民地概說（三）

第六節 主要市街

地方制 改正

朝鮮學校費令

新刊紹介

政界閑話

創作 逆流（七） 森 激波

天日常次郎君



